



学校経営方針

(令和6年4月1日)

調布市立第二小学校長 安藤 力也

I 基本理念

学校は、子どもの健やかな成長のためにある。学校では、子どもが夢や希望をもちながら、自分の力を精一杯出して、より高い目標に向かって挑戦していくことが大切である。

私たち教職員は、「子どもたちの未来に触れている」という、その「責任と誇り」＝「二小 PRIDE」を胸に、子どもたち一人一人と向き合い、受け止め、寄り添い、心をつなげて子どもたちの笑顔のために精いっぱい力を尽くさなければならない。

子どもたちが自分の「よさ」に気づき、自己肯定感を高めるとともに、他者を尊重しながら未来を拓く「生きる力」を育てるために私たち教職員も子どもと共に学び続けていく。そして、学校、保護者・地域住民などが相互に連携、協力しながら、笑顔とともに教育活動を推進していく。

☆キーワード:「**自他尊重**」⇒自分の「よさ」に気づき、自分を大切にする

⇒周りの人の「よさ」を認め、大切に思う

◎ 「よさ」～find goodness～ : 「自他尊重」

学校として、教師として、人間として、子どもたちの「よさ」を認め、引き出し、さらに伸ばしていくことを第一に考えていく。学校も職員も子どもたちも、「よさ」を生かし、笑顔で互いに高め合っていく。

◎ 「すべては子どもたちの笑顔と Wellbeing のために」

～all for smile and wellbeing of children～

“子どもたちが「心身ともに健康で幸せな感情が持続的である」ことは、私たちの共通の願いである。子どもたちを受け止め、寄り添い、自身の指導を常に振り返るとともに、かけがえないわが子を思う保護者の気持ちに寄り添って、最善の努力をしていく。

◎ 「Team 二小」～one for all, all for one～

一人一人の「よさ」を生かし、その力が結集すれば、より大きな力となる。

「二小 PRIDE」を胸に、「Team 二小」の一員として、学校・地域・保護者が力を合わせて笑顔とともに教育活動を進めていく。

Ⅱ 教育目標（目指す児童像）

本校は、児童一人一人を大切にしたい学校づくりを通して、豊かな情操と人権意識を培い、幅広い知識と教養を身に付けるとともに健やかな身体を養う児童の育成を目指し、次の教育目標を設定する。

かがやけ 二小の子

- 1 かんがえる子（自ら学びに向かう子ども）
 - 2 がんばる子（自己肯定感をもち、ねばり強く取組む子ども）
 - ③ やさしい子（多様な価値観を認め合える子ども）
 - 4 けんこうな子（自ら健康な生活を送ることのできる子ども）
- 〔③は、本年度の重点目標〕

Ⅲ 目指す学校像

『子どもたちの笑顔、地域・保護者の笑顔、職員の笑顔があふれる学校』

- 1 個性が尊重され、一人一人が大切にされる学校
- 2 楽しく学び、確かな学力が身に付く学校
- 3 健康と安心・安全を大切にする学校
- 4 教職員が専門性を高め合い、共に学び合う学校
- 5 保護者・地域と共に歩む学校

<基本指導事項（教育活動に臨むときに、まず基盤として全教職員で取り組むこと）>

- 気持ちのよい挨拶と対話 ○ 目と耳と心で話を聞く ○ 主体的に時間を守る
（良好な人間関係の構築） （人権尊重教育を踏まえ） （授業の充実・二小スタンダード）

<二小スタンダード>

- ① あいさつで始め、あいさつで終わる
- ② 背筋を伸ばして座る
- ③ 話している人に体を向ける
- ④ 手を挙げて、指名されたら発言する
- ⑤ 授業の片付けをする時、または次の時間までに授業の用意をする

Ⅳ 学校の教育目標を達成するための基本方針

- 1 学校の教育目標を達成するための基本方針
基本方針の柱として「**自他尊重の精神の涵養**」を位置付け、全教育活動を通じて、自分の「よさ」に気付き自分を大切に、周りの人の「よさ」や違いを認め合い大切に思う子どもを育成する。
ア 「かんがえる子（自ら学びに向かう子ども）」を育成するために
① 「何のために学ぶのか」という学習の意義を児童と共有しながら、主体的・対話的で深い学

びの実現に向けた授業改善を図る。

- ② 学習基盤となる資質・能力を明確にし、知識及び技能の習得とこれらを活用して課題解決に必要な思考力・判断力・表現力や自ら学びに向かう力の育成を目指す。
- ③ 二小スタンダード等に基づき全教職員が同じ視点で、学習規律・生活規律のある指導にあたる。
- ④ 個に応じた指導の充実を図るとともに、自他を認め合い主体的・協働的に学ぶ児童の育成を目指す。
- ⑤ 教科等横断的な視点に立ったカリキュラム・マネジメントの取組をすべての教育活動で推進する。

イ 「がんばる子（自己肯定感をもち、粘り強く取り組む子ども）」を育成するために

- ① 児童一人一人の教育的なニーズに応えるため、自己肯定感を高めたり、他者理解を深めたりすることに視点を当てた教育活動を充実させる。
- ② 家庭と連携し、個別の支援計画及び個別指導計画を十分に活用し、児童のもつよさを伸ばしていく。
- ③ 教職員と校内通級教室との情報共有を十分に行い、校内委員会を中心として特別支援教室専門員、SC、SS、SSWを活用し組織的に取り組む活動を充実させる。また、関係諸機関と連携を図る。

ウ 「やさしい子（多様な価値観を認め合える子ども）」を育成するために

- ① 児童、教師、保護者、地域が一体となっていじめや体罰を許さない学校風土を醸成する。
- ② 自他の「よさ」や互いの違いを認め、自他共に大切にする児童の育成を図る人権教育を推進する。
- ③ 異学年交流を通して、多様な個性を認め合い、寛容に関わる気持ちや思いやりの心の育成を図る。

エ 「けんこうな子（自ら健康な生活を送ることのできる子ども）」を育成するために

- ① 芝生の校庭や体力テストの結果を活用し、体育・保健の授業改善を図るとともに、日常の体育的活動や遊びの充実を進め、心身ともに健康な子どもを育成する。
- ② 本物との出会いを大切に、スポーツや障害者理解教育、伝統文化等に触れ、生きた知識や豊かな情操を育む。
- ③ 食に関する学習指導や保健指導を通して、食に関する教育と健康教育を充実させる。

オ 学校の教育目標達成に向けたその他の事項

- ① 安全・安心な学校づくり
(あ) 教職員の安全への意識・行動を高め、怪我や事故のない安心した教育環境を構築する。
(い) 食物アレルギー対応を含め、組織的・計画的に安全教育を行い、安全安心な学校づくりを進める。
(う) 地域と連携した防災・安全教育の実施を通して、自分で身を守り行動する力を高める。
- ② 協働の学校づくり
(あ) 学校運営協議会を中心に、地域と学校とが一体となって地域人材や地域の教材を生かした教育活動・体験活動を推進し、地域への愛着を深める。
(い) 保護者・児童対象の「学校生活アンケート」の結果及び学校運営協議会による意見交換や評価を積極的に取り入れ、教育活動の改善を図っていく。
(う) 教職員が一人一人の児童と向き合い、丁寧に粘り強い児童指導と保護者対応の取組を組織的に進め、児童・保護者・地域からの信頼を継続する。

私たちは『子どもたちの笑顔、地域・保護者の笑顔、職員の笑顔があふれる学校』をめざし、「子どもたちの未来に触れている」という責任と誇りを胸に、かけがえないわが子を思う保護者の皆様の思いに寄り添い、最善の努力をしてみたいです。これからも、地域・保護者の皆様に愛され、ともに歩み、そして第二小学校の「よさ」を生かしながら、第二小学校ならではの教育活動を進めるべく、職員一同、誠心誠意努力してみたいです。

保護者の皆様には、「チーム二小」の一員として、子どもたちの健やかな成長のために、本校の教育活動へご理解とご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。